

2022. 1 1 月

女性チャレンジ応援拠点だより



コラム

「ものにする！チャレンジ②」

今年は10月初めまで暑かったので、あっという間に年末がくる感じがします。気温の変化が大きかったので、今年の紅葉は例年より見ごたえあるかもしれせん。

さて『チャレンジ再発見一思いのほかあなたを拓くアプローチ』は先月に続き、「眼力利かせ、姿勢保ち、〈ものにする〉チャレンジ」です。意を決して活動を始めたところ、“こんなはずじゃなかった…”の現実、孤軍奮闘が続くなかで、「手伝いますよ」と言ってくれる人が現れると、励まされた気持ちになるし、頼りたくもなりますね。

ただ、気軽に手助けを買って出る人は、あっさり手を引く可能性もあります。あなたは一念発起してチャレンジの世界にとびこんだわけですが、その深い想いと意気込みを他者が同じようにもつことはできません。何か事情ができたり、手助けする気持ち自体がなくなったりして、急に去られるのも仕方ないことなのです。

人の好意・厚意に甘えてお願いしたとしたら〈アテ〉はしない、そう心得ておきましょう。「アテにする」について、次のような捉え方（あるいは苦言）があります。『「アテにする」は甘えの墮落的形態。信頼せずして期待し、あてはずれが起こると、〈逆うらみ〉する』（土居健郎）。

ところで、もし単に「引く」というだけでなく、希望や何かもっと話をしたいという働きかけが先方からあって、あなたもそうしたいと思えば時間をとり、じっくり話し合しましょう。長い関係になる

かどうかの入り口、『雨降って地固まる』こともあります。

逆に“どうもかなり価値観が違う…”と思えたら、この間の協力に感謝して、そのまま引いてもらいましょう。違うのはわるいことではなく、多様な価値観があって当然で、ただ進む道が違うだけのことで、〈発展的解消〉もよし、です。

もし感謝の〈印〉が必要だと感じたら、モノなのかコトなのか、どういうカタチがいいのか考えて用意し、実行します。いずれにせよ、円満に、お互いのフィールドでがんばっていきましょう！という感じで、終わらせます。大らかに〈袂を分かち〉、これも先々の大事な心得です。チャレンジの長い道のりには何度か訪れる局面でしょうから。

一方で、プライベートな場で何げなく出会ったけど、あとあと仕事で長いお付き合いになるケースもあります。例えば、相手から「何をされているんですか？」と尋ねられ、チャレンジしていることを話し始めたら、相手がしっかり聴いている表情が見えて、そして多くを語らなくても、「そう、そういうのがこれから必要なんですよ」と応えるケース。

この話も続けたいと思いますので、また来月のおたのしみ(?)として、今年も残りわずかになりました。2023年の「一年の計」も練り始めた方もいらっしゃるでしょう。そんなこんな今後のプランも一緒に考えてくれるスタッフが『女性チャレンジ応援拠点』に待機しています。みなさまのご利用を、スタッフ一同、お待ちしております。

女性チャレンジ応援拠点

場所：大阪市天王寺区上汐 5-6-25 クレオ大阪中央 4 階
電話&ファックス：06-7659-9640
メール：women-kyoten@danjo.osaka.jp
運営：大阪市立男女共同参画センター中央館

※ 開室日

火	水	木	金	土
10:30 ~ 12:30	18:00 ~ 20:00	13:00 ~ 15:00	10:30 ~ 12:30	13:00 ~ 15:00

※日・月曜日、祝日、祝休日の翌日は休室

※ 開室時間内は自由に出入りいただけます。
お気軽にお立ち寄りください。

